



きたはらしょう

北原小だより

学校教育目標

- 知…かしこさ「よく考え行動する子ども」
- 徳…やさしさ「仲よく助け合う子ども」
- 体…たくましさ「健康でたくましい子ども」
- 絆…いとしさ「地域を大切にす子ども」

令和4年6月30日（木）発行 第4号 和光市立北原小学校

☎ 461-3374

<http://kitahara.wako.city.ed.jp/>

「特別の教科 道徳」で学ぶこと

こうちょう ふなこし かずひで
校長 船越 一英

一学期も残りひと月となりました。7月は一学期の学びのまとめの月でもあります。各学級では振り返りを行いながら、子供たちが自分自身の成長と、さらに努力していくべき点についてしっかりと理解できるように指導してまいります。また、本日から個人面談を実施し、一学期間のお子様の成長の様子や夏季休業日中の過ごし方などについて、各担任と保護者の皆様とで共有させていただいております。お忙しい中とは存じますが、学校へ足をお運びくださいますようお願いいたします。

さて、個人面談ではお子様の学習状況についてもお話をさせていただきますが、子供たちが学校で学習しているのは国語や算数など「教科」といわれるものだけではありません。週に1校時（45分）ですが、「特別の教科 道徳」（道徳科）の学習もしています。では、道徳科の授業では、どのような学習をしているかご存じでしょうか。道徳科では教材の登場人物について「なぜこのように行動した（考えた）のか」を自分のこととして真剣に考え、学級の仲間と話し合う中で「なるほどそういう考え方もあるのか」と多面的・多角的に自分の考えを広げ、実生活に結びつけて「自分ならこうしていきたい」と自分のできる範囲でできることは何かを考えていきます。ですから、国語で漢字を学習したり、算数で九九を学習したりした後のように、学習したことがすぐに役立つことを実感できる学習ではありません。

しかし、様々な文化や価値観をお互いに尊重し合いながら、一人一人が幸せ感（Well-Being）を求めていくためには、道徳科での学びを中核とした道徳教育を通じて育成される道徳性、とりわけ、自己内対話をしながら物事の本質を考える力や、答えが一つではない問題に主体性をもって誠実に向き合う意思や態度、豊かな情操などが極めて重要です。私自身、時折タイミングの合った学級にでかけて道徳科の授業を行っているのですが、子供たちの「より良く生きたい」という思いから発せられる発言にハッとさせられ、自分自身の学びになっているという経験が何度もあります。まさに「豊かな心」が「確かな学力」や「健やかな体」の基盤となり、「生きる力」を育むために極めて重要であると実感させられる瞬間です。これこそが道徳科が「教科」ではなく「特別の教科」と呼ばれる所以だと考えています。ご家庭でもぜひ道徳科での学びについて話題にさせていただき、お子様とより良く生きることについてお話をするきっかけにさせていただければと思います。

